

高等学校各教科等改訂案のポイント

- 総則 1
- 【各学科に共通する各教科】
 - 国語科 2
 - 地理歴史科 4
 - 公民科 6
 - 数学科 8
 - 理科 10
 - 保健体育科 13
 - 芸術科 14
 - 外国語科 16
 - 家庭科 18
 - 情報科 20
- 【主として専門学科において開設される各教科】
 - 職業に関する教科 21
 - 農業科 22
 - 工業科 24
 - 商業科 26
 - 水産科 28
 - 家庭科 30
 - 看護科 32
 - 情報科 34
 - 福祉科 36
 - 理数科 38
 - 体育科 39
 - 音楽科 40
 - 美術科 41
 - 英語科 42
- 総合的な学習の時間 43
- 特別活動 44

高等学校「総則」改訂のポイント

- ・ 小・中学校と同様，①教育基本法の理念を踏まえた改善，②知識・技能の習得と，思考力・判断力・表現力等の育成のバランスの重視，③言語活動の充実等について見直し
- ・ 学校や生徒の実態等に応じ，義務教育段階での学習内容の確実な定着を図る指導について，そのための学習機会を適宜設けるなど具体的な方策を例示

① 教育課程編成の一般方針

- 教育基本法，学校教育法等に従い，教育課程を編成し，教育基本法等に掲げる目標を達成するよう教育を行うことを明確化
- 知識・技能を活用して課題を解決するための思考力，判断力，表現力等の育成，言語活動の充実，学習習慣の確立等を規定
- 道德教育の目標として，伝統と文化を尊重し，それらを育んできた我が国と郷土を愛し，公共の精神を尊び，他国を尊重し，国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献する主体性ある日本人を育成することを明確化。また「自他の生命を尊重する精神」を養う適切な指導をすべきとの配慮事項を追加
- 体育・健康に関する指導は，生徒の発達の段階を考慮すべき旨を規定
- 食育の推進や安全に関する指導について規定

② 義務教育段階の学習内容の確実な定着

- 学校や生徒の実態等に応じ，必要な場合には，例えば次の工夫を行い，義務教育段階での学習内容の確実な定着を図る旨規定
 - ア 義務教育段階の学習内容の確実な定着を図るための学習機会を設けること
 - イ 必履修教科・科目の単位数を増加させ，十分な習得が図られるようにすること
 - ウ 義務教育段階の学習内容の確実な定着を図るための学校設定科目等を開設し，必履修科目の履修の前に履修させること

③ 教育課程の実施等に当たって配慮すべき事項

- 学校の教育活動全体を通じて行う道德教育について，その全体計画を作成する旨を規定
- 10分間程度の短時間に行われるドリル学習等も，一定の要件のもとで授業時数に算入できる旨規定
- 学習の遅れがちな生徒等について，義務教育段階の学習内容の確実な定着を図るための指導を適宜取り入れるなど，指導内容や指導方法を工夫する旨を明示
- 障害のある生徒等について，特別支援学校等の助言・援助を活用し，指導についての計画の作成等により，障害の状態等に応じた指導の工夫を行う旨を規定
- 情報モラルの定着やコンピュータの実践的な活用など情報教育の充実を規定
- 生徒の責任感や連帯感等をはぐくむ部活動について，学校教育の一環として教育課程との関連が図られるよう留意する旨を規定

高等学校「国語科」改訂のポイント

- 必修科目：現行の選択必修から「国語総合」の共通必修に変更
- 科目構成：「国語表現Ⅰ」及び「国語表現Ⅱ」の内容を再構成し「国語表現」とするとともに、「現代文A」を新設
- 主な改善事項
 - ・ 言語に関する能力を育成する中核を担う教科であることを踏まえ、社会人として、また各教科等における学習に必要な能力を身に付けるため、討論、説明、創作、批評、編集などの言語活動を充実（言語活動例を「内容の取扱い」から「内容」に移し、記述を具体化。）
 - ・ 我が国の伝統と文化に関する教育を充実するため古典に関する指導を充実

（1）科目構成

改 訂 案			現 行		
科 目	標準 単位数	必修科目	科 目	標準 単位数	必修科目
国語総合	4	○2単位まで減可	国語表現Ⅰ	2	} ○
国語表現	3		国語表現Ⅱ	2	
現代文A	2		国語総合	4	
現代文B	4		現代文	4	
古典A	2		古典	4	
古典B	4		古典講読	2	

（2）各科目の改善事項

【国語総合】

- 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕を設け、伝統的な言語文化への興味・関心を広げるよう指導事項を新設
- 資料に基づいて説明する、随筆を書くなどの言語活動例を具体的に記述

【国語表現】

- 思考力や想像力を伸ばすことを重視し、論理の構成や描写の仕方を工夫して効果的に伝える指導事項を新設
- 討論する、解説をまとめる、資料を編集するなどの言語活動例を具体的に記述

【現代文A】

- 言語文化に対する理解を深め、生涯にわたって読書に親しむ態度を育成することを重視
- 調べて発表する、読み比べて批評するなどの言語活動例を具体的に記述

【現代文B】

- 近代以降の文章を読むことを中心としつつ、適切に表現する能力を育成するための指導事項についても充実を図り、総合的な言語能力を育成することを一層明確化
- 創作的な活動を行う、論文集を編集するなどの言語活動例を具体的に記述

【古典A】

- 伝統と文化に関する理解を深め、古典に親しむ態度を育成するため、原文だけでなく古典に関連する文章も取り上げる。
- 音読、朗読、暗唱をする、読み比べて考えたことをまとめるなどの言語活動例を具体的に記述

【古典B】

- 古典を読む能力を育成することと、言語文化の変遷についての理解を深めることを重視
- 言葉の変遷について報告する、古典に表れた人間の生き方や考え方について話し合うなどの言語活動例を具体的に記述

(3) 言語活動の重視

- 「内容の取扱い」から「内容」の(2)に移行した言語活動例を通して、「内容」の(1)に示した指導事項を実践的に指導することを一層重視し、社会人として生きるために必要とされる国語の能力を確実に育成

(4) 活用の重視

- 言語活動例において、知識及び技能を活用する学習活動を具体的に規定
- 課題を探究する指導事項(現代文A, 古典A)や、言語活動例(現代文B, 古典B)を規定

高等学校「地理歴史科」改訂のポイント

○必履修科目・科目構成：変更なし

○主な改善事項

- ・ 世界史，日本史，地理相互の関連付けを図ることを各科目の目標に明示。特に必履修科目である世界史においては，地理や日本史にかかわる内容を充実。
- ・ 各科目に課題を探究する学習を設けるとともに，論述，討論などの言語活動を充実。
- ・ 各科目において地図，年表をはじめ様々な資料を活用した学習を一層重視する。

(1) 科目構成

改 訂 案			現 行			
科 目	標準 単位数	必履修科目		標準 単位数	必履修科目	
世界史A	2	┌ ○	←	世界史A	2	┌ ○
世界史B	4	└		世界史B	4	└
日本史A	2	┌		日本史A	2	┌
日本史B	4	└ ○		日本史B	4	└ ○
地理A	2	┌		地理A	2	┌
地理B	4	└		地理B	4	└

(2) 各科目の改善事項

【世界史A・B】

- 地理歴史科の必履修科目として，導入学習において地理や日本史を含めた歴史への関心を高めるよう内容を充実。
- 現代社会の課題を歴史的に探究する学習を設定。
- 近現代史により一層重点を置く。(世界史A)
- 主題学習を各項目に設けることにより，歴史学習に関する技能を高め，言語活動の充実を図る。(世界史B)

【日本史A・B】

- 学習内容を活用し，主題を設定し追究や探究を行う学習を通して，歴史的な見方や考え方を身に付けさせる。
- 歴史の展開を大きくとらえることを重視し，項目数を削減。(日本史A)
- 資料を活用して歴史を考察し，表現する技能を高める学習を充実(日本史B)

【地理A・B】

○内容全体を通して、地図を活用して事象を説明したり、自分の解釈を加えて論述したり、討論したりするなどの学習活動を実施。

○地理的課題について探究する学習を設定。

○防災、地域調査など実生活と結びついた学習を充実。(地理A)

○世界の地理的認識を深めるため、世界地誌学習を充実。(地理B)

(3) 言語活動の充実

- ・ 資料の活用や事象の説明、探究した成果を論述、討論するなどの学習活動の重視

(4) 活用の重視

- ・ 各科目において、諸課題について探究させる項目を設定

高等学校「公民科」改訂のポイント

- 必履修科目・科目構成：変更なし
- 主な改善事項
 - ・ 各科目に課題を探究する学習を設けるとともに、論述、討論などの言語活動を充実。
 - ・ 人間としての在り方生き方について考察する学習を充実。
 - ・ グローバル化や規制緩和の進展、司法の役割の増大等に対応して、法や金融、消費者に関する学習を充実。
 - ・ 伝統や文化、宗教に関する学習を充実。

(1) 科目構成

改 訂 案			←	現 行		
科 目	標準 単位数	必履修科目		科 目	標準 単位数	必履修科目
現代社会	2	「現代社会」又は		現代社会	2	「現代社会」又は
倫理	2	「倫理」・「政治・		倫理	2	「倫理」・「政治・
政治・経済	2	経済」		政治・経済	2	経済」

(2) 各科目の改善事項

【現代社会】

- 現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての考察を充実。
- 青年期についての学習において伝統や文化にも触れる。
- 法や規範の意義及び役割、司法制度の在り方など法に関する学習を充実。
- 経済活動についての学習において、私法、金融、消費者に関する学習を充実。

【倫理】

- 目標に、「生命に対する畏敬の念」及び「他者と共に」を加える。
- 人間としての在り方生き方への関心を高めるよう導入学習を充実。
- 現代の諸課題について「文化と宗教」などを加えるとともに、主体的に探究させる学習を一層充実。

【政治・経済】

- 法の意義と機能、法に関する基本的な見方や考え方など、法に関する学習を充実。
- 金融や消費者に関する学習を充実。
- 持続可能な社会の形成という観点から課題を探究させる学習を充実。

(3) 言語活動の充実

- ・ 資料の収集、読み取り、探究した結果をまとめて分かりやすく表現させるなどの学習活動の重視

(4) 活用の重視

- ・ 各科目において、現代の諸課題について探究させる項目を設定

高等学校「数学科」改訂のポイント

- 必履修科目：現行の選択必履修から「数学Ⅰ」の共通必履修に変更
- 科目構成：現行の7科目構成を，6科目構成に再編
 数学の具体的事象への活用を重視した「数学活用」を新設するとともに，「数学C」の内容はその系統性等にも配慮し，他科目へ移行
- 主な改善事項
 - ・教科目標で「数学的活動」を一層重視し，「数学的活動」の配慮事項を新たに規定
 - ・中学校との接続や内容の系統性を一層重視
 - ・知識・技能を活用する力を育成し，数学のよさを認識させるため，「数学Ⅰ」及び「数学A」の内容に〔課題学習〕を位置付け
 - ・統計に関する内容を充実し，統計活用力を育成

(1) 科目構成

改 訂 案			現 行		
科 目	標準 単位数	必履修科目	科 目	標準 単位数	必履修科目
数学Ⅰ	3	○2単位まで減可	数学基礎	2	} ○
数学Ⅱ	4		数学Ⅰ	3	
数学Ⅲ	5		数学Ⅱ	4	
数学A	2		数学Ⅲ	3	
数学B	2		数学A	2	
数学活用	2		数学B	2	
			数学C	2	

(2) 各科目の改善事項

【数学Ⅰ】

- 中学校との接続を重視し，新たに統計に関する内容を加え「数と式」，「図形と計量」，「二次関数」，「データの分析」の4つの内容で構成
- 中学校で指導した内容を再度取り上げ，スパイラル的に指導ができるよう，内容を構成（例えば，無理数の四則計算や因数分解，不等式，データの分析など）
- 内容に〔課題学習〕を位置付け，生徒の主体的な学習を促し，数学のよさを認識させる指導を重視

【数学Ⅱ】

- 「いろいろな式」，「図形と方程式」，「指数関数・対数関数」，「三角関数」，「微分・積分の考え」の5つの内容で構成
- 二項定理を「いろいろな式」で新たに取扱うことにより，二項定理をより多くの場面で活用できるよう配慮

【数学Ⅲ】

- 現行学習指導要領で扱っていなかった複素数平面に関する内容を加え、「平面上の曲線と複素数平面」、「極限」、「微分法」、「積分法」の4つの内容で構成
- 「積分法」で、「曲線の長さ」を追加し、「平面上の曲線」の内容と関連させて学ぶことにより生徒が「積分法」の有用性を一層理解できるよう配慮

【数学A】

- 「場合の数と確率」、「整数の性質」、「図形の性質」の3つの内容から適宜選択して履修するよう再構成
- 「空間図形」に関する内容を新たに導入し、生徒の空間認識力の向上を重視
- 内容に〔課題学習〕を位置付け、生徒の主体的な学習を促し、数学のよさを認識させる指導を重視

【数学B】

- 「確率分布と統計的な推測」、「数列」、「ベクトル」の3つの内容から適宜選択して履修するよう再構成。
- 「確率分布と統計的な推測」は、現行の「数学C」の「確率分布」及び「統計処理」を統合し再構成。
- 現行のコンピュータ関係の内容は教科「情報」との関連も踏まえて見直し、数学科では必要な場面で表計算ソフトなどを活用して問題を解決することを重視

【数学活用】

- 「数学と人間の活動」、「社会生活における数理的な考察」の二つの内容で構成
- 「数学と人間の活動」では「遊びの中の数学」として、数理的なゲームやパズルなどを通して数学のよさを理解することを、「社会生活における数理的な考察」では「数学的な表現の工夫」として、身近な事象について、図、表、行列、離散グラフなどを用いて、数理的に表現し考察することを重視

(3) 言語活動の充実

- 第3款に内容の取扱いの配慮事項として「数学的活動を重視する」ことを明記し、その具体的事項として「自らの考えを数学的に表現し根拠を明らかにして説明したり、議論したりすること」を規定

(4) 活用の重視

- 必履修科目「数学I」及び「数学A」に〔課題学習〕を新設し、知識・技能を活用する力を育成
- 科目「数学活用」を設け、事象を数理的に考察する能力を高め、数学を積極的に活用する態度を育成
- 第3款に内容の取扱いの配慮事項として「数学的活動を重視する」ことを明記し、その具体的事項として、「学習した内容を生活と関連付け、具体的な事象の考察に活用すること」を規定
- これまで選択であった「確率・統計」に関する内容を、必履修科目「数学I」に位置づけるとともに、「数学B」に「確率分布と統計的な推測」を統合・新設し、統計活用力を一層重視

高等学校「理科」改訂のポイント

- 必修科目：物理，化学，生物，地学のうち3領域以上の科目を履修する場合には，総合科目の履修を不要とし科目履修の柔軟性を向上
- 科目構成：各領域ごとに3単位科目が2科目であったのを，2単位科目と4単位科目に再構成するとともに，「科学と人間生活」及び「理科課題研究」を新設
- 主な改善事項
 - ・ 科学に対する興味・関心を高めるため，人間生活とかかわりの深い内容を扱う「科学と人間生活」を新設
 - ・ 探究的な学習を重視する観点から，「物理」，「化学」，「生物」，「地学」に新たに探究活動を導入するとともに，「理科課題研究」を新設
 - ・ 中学校との関連を図る観点から，「物理基礎」，「化学基礎」，「生物基礎」，「地学基礎」においては，「エネルギー」，「粒子」，「生命」，「地球」などの科学の基本的な見方や概念を踏まえて内容を構成
 - ・ 「物理基礎」，「化学基礎」，「生物基礎」，「地学基礎」においては日常生活や社会との関連を重視，「物理」，「化学」，「生物」，「地学」においては，選択して履修していた項目を必修化し，指導内容を充実

(1) 科目構成

改 訂 案			現 行		
科 目	標準 単位数	必修科目	科 目	標準 単位数	必修科目
科学と人間生活	2	「科学と人間生活」を含む 2科目又は 基礎を付した 科目を3科目	理科基礎	2	2 科 目 (「理科基礎」 「理科総合A」 「理科総合B」 を少なくとも 1科目含む)
物理基礎	2		理科総合A	2	
物理	4		理科総合B	2	
化学基礎	2		物理Ⅰ	3	
化学	4		物理Ⅱ	3	
生物基礎	2		化学Ⅰ	3	
生物	4		化学Ⅱ	3	
地学基礎	2		生物Ⅰ	3	
地学	4		生物Ⅱ	3	
理科課題研究	1		地学Ⅰ	3	
			地学Ⅱ	3	

(2) 各科目の改善事項

【科学と人間生活】

- 科学に対する興味・関心を高めるため，人間生活にかかわりの深い内容で構成し，観察，実験を重視した科目として新設
- 科学に対する興味・関心を広く養う観点から，物理，化学，生物，地学の4領域の内容で構成

【物理基礎】

- 中学校との接続に配慮し、「エネルギー」と関連付けて物理的な事物・現象を理解させることを重視した内容で構成
- 日常生活や社会との関連を重視し、「エネルギーとその利用」、「物理学が拓く未来」等の項目を新設

【物理】

- 物理学を学ぶ意義を理解させるため、物理学の成果が様々な分野で利用され、新しい科学技術の基盤となっていることを理解させる項目「物理学が築く未来」を新設
- 現行の「物理Ⅱ」では選択であった項目（「物質と原子」と「原子と原子核」）の内容を整理、必修化し、履修する内容を充実

【化学基礎】

- 中学校との接続に配慮し、「粒子」と関連付けて物質の性質の違いを理解するために必要な「化学結合」の内容を充実
- 日常生活や社会との関連を重視し、化学を学ぶ意義を理解させる項目「化学と人間生活」を新設

【化学】

- 化学に関する研究分野との関連を重視して内容を再構成
- 現行の「化学Ⅱ」では選択であった項目（「生活と物質」と「生命と物質」）の内容を整理、必修化し、履修する内容を充実

【生物基礎】

- 中学校との接続に配慮し、「生命」と関連付けて「生物の共通性と多様性」の視点を重視した項目を科目の導入として新設
- 日常生活や社会との関連を重視し、免疫や生態系など健康や環境に関する内容を充実
- 新しい生物学の内容として「遺伝情報とタンパク質の合成」を現行の選択科目の「生物Ⅱ」からより多くの履修が見込まれる「生物基礎」に導入

【生物】

- 遺伝子の発現、植物の器官の分化などについては、新しい生物学の知見を踏まえて内容を充実
- 現行の「生物Ⅱ」では選択であった項目（「生物の分類と進化」と「生物の集団」）の内容を整理、必修化し、履修する内容を充実

【地学基礎】

- 中学校との接続に配慮し、「地球」と関連付けて「プレートの運動」、「大気の循環」など、中学校の内容をより深化させ、スパイラル的に指導できるように内容を構成
- 日常生活や社会との関連を重視し、自然環境と人間生活のかかわりなどに関する項目「地球の環境」を新設

【地学】

- 「膨張宇宙などの現在の宇宙像」など比較的新しい地学の内容を充実
- 現行の「地学Ⅱ」では選択であった項目（「地球の探究」、「地球表層の探究」、「宇宙の探究」）の内容を整理、必修化し、履修する内容を充実

【理科課題研究】

- 現行では各科目ごとに研究を行っていた「課題研究」を先端科学や学際的領域に関する研究なども扱えるように改善し、新しい科目として設置
- 個人やグループでの課題設定、大学や研究機関との連携、協力、研究成果の発表などを重視

(3) 言語活動の充実

- 第3款の指導計画の作成に当たっての配慮事項として「結果を分析し解釈して自らの考えを導き出し、それらを表現するなどの学習活動の充実」を新たに規定

(4) 活用の重視

- 「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」「物理」「化学」「生物」「地学」の科目に探究活動を位置付けるとともに、「理科課題研究」を新設

高等学校「保健体育科」改訂のポイント

○ 必履修科目・科目構成：変更なし

○ 主な改善事項

- ・ 生涯にわたって健やかな体を培うための身体能力と知識を定着させ、個人に応じた豊かなスポーツライフを実現する資質と能力を育成する観点から、発達の段階に応じた指導内容の明確化・体系化
- ・ 卒業後に少なくとも一つの運動やスポーツを継続することができるようにするため、領域選択の方法を変更
- ・ 個人生活及び社会生活における健康・安全に関する内容を重視する観点から、様々な保健活動や対策などについての内容を再構成するとともに、医薬品に関する内容を改善

(1) 科目構成

改訂案			現行		
科目	標準 単位数	必履修科目	科目	標準 単位数	必履修科目
体育	7～8	○	体育	7～8	○
保健	2	○	保健	2	○

(2) 各科目の改善事項

【体育】

- 各領域について、具体的な指導内容を明示
(現行は、一部の領域について、運動種目等のみ規定)
- 「球技」については、「ゴール型」、「ネット型」、「ベースボール型」として、類型で規定(現行は、バスケットボール、サッカーなどと規定)
- 「体づくり運動」と「体育理論」を扱うべき時間数を規定

【保健】

- 「現代社会と健康」において、小学校、中学校の内容を踏まえた系統性のある学習ができるよう、健康の概念に関する内容を明示
- また、「生涯を通じる健康」において、医薬品に関する指導を充実

(3) 言語活動の充実

- 体育において、コミュニケーション能力や論理的な思考力の育成を促し、主体的な学習活動が充実するよう配慮することを規定

(4) 活用の重視

- 保健において、知識を活用する学習活動を取り入れることを規定

高等学校「芸術科」改訂のポイント

- 必修科目・科目構成：変更なし
- 主な改善事項
 - ・ 教科目標に「芸術文化の理解」を新たに規定するなど、我が国の伝統と文化に関する教育を充実
 - ・ 生涯学習社会の一層の進展に対応するため、科目目標に生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てることをより明確化

(1) 科目構成

改 訂 案			現 行		
科 目	標準 単位数	必修科目	科 目	標準 単位数	必修科目
音楽Ⅰ	2	} ○	音楽Ⅰ	2	} ○
音楽Ⅱ	2		音楽Ⅱ	2	
音楽Ⅲ	2		音楽Ⅲ	2	
美術Ⅰ	2		美術Ⅰ	2	
美術Ⅱ	2		美術Ⅱ	2	
美術Ⅲ	2		美術Ⅲ	2	
工芸Ⅰ	2		工芸Ⅰ	2	
工芸Ⅱ	2		工芸Ⅱ	2	
工芸Ⅲ	2		工芸Ⅲ	2	
書道Ⅰ	2		書道Ⅰ	2	
書道Ⅱ	2		書道Ⅱ	2	
書道Ⅲ	2		書道Ⅲ	2	

(2) 各科目の改善事項

【音楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ】

- 表現活動及び鑑賞活動において共通に必要な「音楽を形づくっている要素の知覚・感受」を表現及び鑑賞の指導事項として新設（Ⅰ・Ⅱ）
- 我が国の伝統的な歌唱及び和楽器の指導を重視（Ⅰ・Ⅱ）
- 我が国や郷土の伝統音楽に関する鑑賞指導の充実
- 知的財産権等の配慮に関する事項を新設

【美術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ】

- 指導内容を「発想・構想の能力」と「表現の技能」に分けて整理
- 我が国の美術文化に関する鑑賞指導の充実
- 知的財産権等の配慮に関する事項を新設

【工芸Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ】

- 表現領域の指導内容を「身近な生活と工芸」と「社会と工芸」により再構成するとともに、指導事項を「発想・構想の能力」と「表現の技能」に分けて整理
- 我が国の工芸の伝統と文化に関する鑑賞指導の充実
- 知的財産権等の配慮に関する事項を新設

【書道Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ】

- 「漢字仮名交じりの書」、「漢字の書」及び「仮名の書」の3分野全てを学習するとともに、篆刻や刻字等の立体に対する視点を重視（Ⅰ）
- 書の伝統と文化に関する鑑賞指導の充実
- 知的財産権等の配慮に関する事項を新設

(3) 言語活動の充実

各鑑賞指導において、言語活動を充実

- ・ 楽曲や演奏について根拠をもって批評する活動（音楽）
- ・ 作品について互いに批評し合う活動（美術、工芸、書道）

(4) 活用の重視

- ・ 表現活動及び鑑賞活動において共通に必要な「音楽を形づくっている要素の知覚・感受」を表現及び鑑賞の指導事項として新設（音楽）
- ・ 指導内容を「発想・構想の能力」と「表現の技能」に分けて整理（美術、工芸）

高等学校「外国語科」改訂のポイント

- 必修科目：現行の選択必修から「コミュニケーション英語Ⅰ」の共通必修に変更
- 科目構成：科目構成を変更し，4技能の統合的かつ総合的な育成を図るコミュニケーション科目，論理的に表現する能力の向上を図る表現科目，会話する能力の向上を図る「英語会話」に再編
- 主な改善事項
 - ・ 指導する語数を充実。コミュニケーション英語Ⅰ，Ⅱ及びⅢを履修する場合には，高等学校で1，800語，中高で3，000語を指導
(現行，英語Ⅰ，英語Ⅱ及びリーディングを履修した場合，高校で1，300語，中高で2，200語)
 - ・ 生徒が英語に触れる機会を充実するとともに，授業を実際のコミュニケーションの場面とするため，授業は英語で行うことを基本とすることを明記

(1) 科目構成

改 訂 案			現 行		
科 目	標準 単位数	必修科目	科 目	標準 単位数	必修科目
コミュニケーション英語基礎	2	○2単位まで減可	オーラル・コミュニケーションⅠ	2	} ○
コミュニケーション英語Ⅰ	3		オーラル・コミュニケーションⅡ	4	
コミュニケーション英語Ⅱ	4		英語Ⅰ	3	
コミュニケーション英語Ⅲ	4		英語Ⅱ	4	
英語表現Ⅰ	2		リーディング	4	
英語表現Ⅱ	4		ライティング	4	
英語会話	2				

(2) 各科目の改善事項

【コミュニケーション英語基礎】

- 中学校における指導内容との円滑な接続を目的とした科目として創設。生徒の実態に応じ，中学校における指導内容等を整理し定着を図る

【コミュニケーション英語Ⅰ、Ⅱ及びⅢ】

- 「聞く」「読む」「話す」「書く」の4技能の総合的かつ統合的な育成を図る科目として創設。例えば、聞いたことや読んだことを踏まえた上で話したり書いたりする活動を適切に取り入れるなど、4技能を有機的に関連付けつつ総合的に指導することを明確化
- コミュニケーション英語Ⅱ及びⅢにおいて指導する新語の数をそれぞれ700語とし、現行の英語Ⅱやリーディングと比べて充実
(現行、英語Ⅱ及びリーディングを履修した場合、実質的に、それぞれ500語、400語の新語を指導)

【英語表現Ⅰ及びⅡ】

- 「話す」「書く」技能を中心に、論理的に表現する能力の向上を図る科目として創設。例えば、オーラル・コミュニケーションⅠ及びⅡにおける指導内容とされていた「発表(プレゼンテーション)」「討論(ディベート)」等の言語活動に係る能力を育成

【英語会話】

- 身近な話題について会話する能力を養う科目として、従来のオーラル・コミュニケーションを改編

【英語に関する科目の共通事項等】

- 生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とすることを明記

(3) 言語活動の充実

- 聞いたり読んだりした内容に基づき、話したり書いたりする活動を適切に取り入れ、4技能を有機的に関連付けつつ総合的に育成することを一層重視し、実際に用いることのできるよう外国語に係るコミュニケーション能力を育成
- 指導する語数を充実。例えば、コミュニケーション英語Ⅰ、Ⅱ及びⅢのそれぞれを各学年で履修するような普通科での標準的な履修パターンにおいては、高等学校で1,800語、中高校で3,000語を指導
(現行、英語Ⅰ、英語Ⅱ及びリーディングを履修した場合、高校で1,300語、中高校で2,200語)

(4) 活用の重視

- 文法指導は言語活動と効果的に関連付けて指導することを明確化
- 新設した表現科目において、「発表(プレゼンテーション)」「討論(ディベート)」等の言語活動に係る能力を育成

高等学校「家庭科」改訂のポイント

- 必修科目：「家庭基礎」、「家庭総合」、「生活デザイン」のうちから1科目
- 科目構成：科目「生活技術」の内容を改編し、「生活デザイン」を新設
- 主な改善事項
 - ・ 衣食住や消費生活などに関する知識・技術を身に付けさせ、生涯の生活設計ができるようにすることを重視
 - ・ 消費者教育や環境教育及び食育の推進，子育て理解や高齢者の理解などの少子高齢化への対応に関する指導を充実
 - ・ 衣食住の文化の継承にかかわる内容を充実

(1) 科目構成

改 訂 案			←	現 行		
科 目	標準 単位数	必修科目		科 目	標準 単位数	必修科目
家庭基礎	2	} ○		家庭基礎	2	} ○
家庭総合	4	} ○		家庭総合	4	} ○
生活デザイン	4	} ○		生活技術	4	} ○

(2) 各科目の改善事項

【家庭基礎】

- 青年期の自立と共生という視点から，家庭・家族，福祉，衣食住，消費生活にかかわる基礎的・基本的な知識と技術を習得させ，環境に配慮したライフスタイルとのかかわりを深める学習を重視

【家庭総合】

- 生涯を見通した生活を営むために必要な家族・家庭，子どもや高齢者とのかわりと福祉，消費生活，衣食住などに関する知識と技術を総合的に習得させ，持続可能な社会を目指したライフスタイルの確立に関する学習を重視
- 例えば，生活設計の立案を通して，生涯を見通した自己の生活について主体的に考えることを重視

【生活デザイン】

- 実験・実習等の体験を特に重視し，衣食住の生活文化に関心をもたせるとともに，生涯を通して健康と環境に配慮した生活を主体的に営むことができるようにすることを重視
- 例えば，栄養とおいしさを考えた食べ物や食事を作るために必要な知識と技術を習得させることや食文化を継承し食生活を創造的に実践する学習を重視

(3) 言語活動の充実

- 子どもや高齢者、地域の人々などと触れ合い、他者とかかわる力を高める活動の重視
- 衣食住などの生活における様々な事象を言葉や概念などを用いて考察する活動、判断が必要な場面を設けて理由や根拠を論述したり最適な解決方法を探究したりする活動などの重視

(4) 活用の重視

- 自分の生活に関連付けて学習できるよう、問題解決的な学習を充実
(ホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動の趣旨を明記)

高等学校「情報科」改訂のポイント

- 必修科目：「社会と情報」，「情報の科学」のうちから1科目
- 科目構成：「情報A」「情報B」「情報C」の内容を再構成し，「社会と情報」「情報の科学」の2科目構成とする
- 主な改善事項
 - ・ 情報社会を構成する一員として，社会の情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を育成する観点から，「情報社会に参画する態度」や「情報の科学的な理解」を柱に科目の内容を改善
 - ・ 情報活用能力を確実に身に付けさせるために，小・中・高等学校を通じた体系的な情報教育の実施を踏まえ，内容を一部重複させるなどして指導を充実
 - ・ 内容に情報モラルを項目立てし，情報モラルを身に付けさせる学習活動を重視

(1) 科目構成

改 訂 案			←	現 行		
科 目	標準 単位数	必修科目		科 目	標準 単位数	必修科目
社会と情報 情報の科学	2 2	} ○		情報A 情報B 情報C	2 2 2	} ○

(2) 各科目の改善事項

【社会と情報】

- 情報の収集，分析，表現や効果的なコミュニケーションを行うために情報機器や情報通信ネットワークを適切に活用する学習活動を重視
- 情報の特徴，情報化が社会に及ぼす影響の理解及び情報モラルを身に付ける学習活動を重視

【情報の科学】

- 問題解決を行うために情報と情報技術を効果的に活用する学習活動やそのために必要となる科学的な考え方を身に付ける学習活動を重視
- 情報社会を支える情報技術の役割や影響の理解及び情報モラルを身に付ける学習活動を重視

(3) 言語活動の充実

- 生徒が主体的に考え，討議し，発表しあう学習活動を取り入れ，言語などを活用して，新たな情報を創り出したり，分かりやすく情報を表現したり，正しく伝えたり，他者と共同して問題を適切に解決する学習活動を重視

(4) 活用の重視

- 情報の収集，分析，表現や効果的なコミュニケーション及び問題解決に情報機器や情報通信ネットワークを活用する学習活動を重視

職業に関する教科の改訂のポイント

職業に関する各教科については、「将来のスペシャリストの育成」、「地域産業を担う人材の育成」、「人間性豊かな職業人の育成」という三つの観点を基本として、教科横断的に改善。具体的には、社会的責任を担う職業人としての規範意識や倫理観、技術の進展や環境、エネルギーへの配慮、食の安全、情報モラル・セキュリティ管理の重要性等、各種産業で求められる知識と技術、資質を身に付けさせる観点から、科目の新設を含め科目の構成や内容を改善。

1 将来のスペシャリストの育成

- 専門性の基礎・基本を一層重視するとともに、専門分野に関する知識と技術の定着を図る観点から科目の構成や内容の改善を図り、現行の8教科169科目から8教科188科目で構成。
 - 「 農業：29→30、工業：60→61、商業：17→20、水産：20→22 」
 - 「 家庭：19→20、看護：6→13、情報：11→13、福祉：7→9 」
- 職業に関する各学科における原則履修科目は、現行と同様、各教科の基礎的科目と課題研究の2科目。
- 実社会や職業とのかかわりを通じて、職業観、規範意識、コミュニケーション能力等に根ざした実践力を身に付ける観点から、総則において「産業現場等における長期間の実習を取り入れる」ことを明記。

2 地域産業を担う人材の育成

- 地域産業や地域社会との連携や交流を促進させる観点から、各教科で「地域や産業界等との連携・交流を通じた実践的な学習活動や就業体験を積極的に取り入れるとともに、社会人講師を積極的に活用するなどの工夫に努める」ことを明記。
- 地域産業を担う人材の育成を重視する観点から、農業や商業、水産等の関係科目において、地域産業の振興、商品開発や起業的な活動等に取り組む学習に関する内容を充実。

3 環境・エネルギー、食の安全等への対応と職業人としての倫理観の育成

- 各教科の目標に、「〇〇の諸課題を倫理観をもって解決し…」という文言を明記（看護、福祉については、各科目レベルで明記）するとともに、関係科目においても内容を充実。
- 農業、工業、水産、家庭等の関係科目において、例えば工業で「環境工学基礎」を新設するなど、環境・エネルギーに関する内容や食料の安全で安定的な供給など食の安全等への対応に関する内容を充実。
- 職業に関する各教科ごとの情報関連科目において情報モラルや情報のセキュリティ管理に関する内容を充実。

高等学校「農業科」(専門教科)改訂のポイント

- 原則履修科目:「農業と環境」「課題研究」
- 科目構成:「水循環」や「環境緑化材料」を新設するなど現行の29科目から30科目で構成
- 主な改善事項
 - ・ 農林業における生産・流通・経営の多様化や技術の高度化への対応
 - ・ 地球規模での環境保全の必要性の高まり等への対応
 - ・ 安全な食料の安定的供給への要請や職業人として求められる倫理観等の育成への対応

(1) 科目構成(次ページ参照)

(2) 各科目の改善事項

- 「作物」、「生物活用」などの科目において、実際的な取組により実践力を高める内容を充実。
- 「動物・微生物バイオテクノロジー」について、実験動物に関する内容を充実させ、「動物バイオテクノロジー」に名称変更し、微生物分野は「微生物基礎」と整理統合し「微生物利用」に名称変更。
- 「農業科学基礎」と「環境科学基礎」について、農業生物の育成と環境の保全・創造に関する基礎的な内容を一体的に学習できるよう、内容を整理統合し「農業と環境」に名称変更。
- 地球規模での水の循環と農業や生物とのかかわりについて、農業水利や水の有効利用と関連付けて学習する内容で構成する「水循環」を新設。
- 教科の目標の中に、農業に関する諸課題を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって解決し、農業と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てることを明記。
- 「野菜」や「食品流通」などの科目において、農業生産工程管理、残留農薬のポジティブリスト制度、食品トレーサビリティシステム、危害分析重要管理点手法、食品安全マネジメントシステムなど、安全な食品の供給に必要な取組等に関する内容を充実。

教科「農業」の科目構成

改 訂 案	現 行	備 考
農業と環境	農業科学基礎 環境科学基礎	整理統合
課題研究	課題研究	
総合実習	総合実習	
農業情報処理	農業情報処理	
作物	作物	
野菜	野菜	
果樹	果樹	
草花	草花	
畜産	畜産	
農業経営	農業経営	
農業機械	農業機械	
食品製造	食品製造	
食品化学	食品化学	
微生物利用	微生物基礎	分類整理
植物バイオテクノロジー	植物バイオテクノロジー	
動物バイオテクノロジー	動物・微生物バイオテクノロジー	
農業経済	農業経済	
食品流通	食品流通	
森林科学	森林科学	
森林経営	森林経営	
林産物利用	林産加工	名称変更
農業土木設計	農業土木設計	分類整理
農業土木施工	農業土木施工	
水循環		新設
造園計画	造園計画	
造園技術	造園技術	分類整理
環境緑化材料		新設
測量	測量	
生物活用	生物活用	
グリーンライフ	グリーンライフ	

高等学校「工業科」(専門教科)改訂のポイント

- 原則履修科目:「工業技術基礎」「課題研究」
- 科目構成:「環境工学基礎」を新設するなど現行の60科目から61科目で構成
- 主な改善事項
 - ・工業技術の高度化、環境・エネルギー問題への対応
 - ・情報化とネットワーク化の進展への対応
 - ・技術者倫理の要請と伝統技術の継承の高まりなどへの対応

(1) 科目構成(次ページ参照)

(2) 各科目の改善事項

- 教科の目標に、環境に加えてエネルギーに配慮することを明記。
- 環境に関する基礎的な内容を学ぶ「環境工学基礎」を新設するとともに、「実習」や「建築計画」などでエネルギーについて配慮することを明記。
- 情報化とネットワーク化の進展に対応するため、「マルチメディア応用」をコンピュータシステムに関する学習の充実を図り「コンピュータシステム技術」に名称変更。
- 「情報技術基礎」、「プログラミング技術」、「ハードウェア技術」、「ソフトウェア技術」においても、学習内容を再編成。
- 教科の目標に工業の諸課題を倫理観をもって解決することを明記するとともに、「工業技術基礎」において、ものづくり技術者として求められる使命と責任について理解させることを明記。
- 「実習」、「建築法規」、「化学工学」等において、技術者としての倫理感を養うことや法令遵守について明記。
- 「実習」において日本の伝統技術・技能を扱うことを明記するとともに、「繊維製品」等において、日本の伝統的な技法について扱うことを明記。

高等学校「商業科」(専門教科)改訂のポイント

- 原則履修科目:「ビジネス基礎」「課題研究」
- 科目構成:「商品開発」や「ビジネス情報管理」を新設するなど現行の17科目から20科目で構成
- 主な改善事項
 - ・経済のサービス化・グローバル化、ICTの急速な進展等への対応
 - ・ビジネスの諸活動を主体的・合理的に行う実践力や地域産業の振興など起業家精神を身に付けた人材の育成への対応
 - ・職業人としての倫理観や遵法精神などの育成への対応

(1) 科目構成(次ページ参照)

(2) 各科目の改善事項

- 「文書デザイン」について、情報通信ネットワークを活用した商取引や広告・広報を学ぶ内容に再構成し、「電子商取引」に名称変更。また、情報通信ネットワークの構築と運用管理及びビジネス情報システムの開発を学ぶ「ビジネス情報管理」を新設。
- 経済の仕組みや概念を学ぶ「ビジネス経済」を新設するとともに、「国際ビジネス」について、経済社会の動向を学ぶ内容に見直しを図り、「ビジネス経済応用」に名称変更。
- 商品を企画・開発し、流通活動を行う能力と態度を育てる「商品開発」を新設するとともに、「ビジネス経済応用」において起業の手続を学ぶ項目及び新たなビジネスや地域産業の振興方策を考案させる内容を充実。
- 会計情報を経営に活用する能力を育成するため、「会計」を「財務会計Ⅰ」、「会計実務」を「財務会計Ⅱ」に名称変更し、内容を充実するとともに、「管理会計」を新設。
- 教科の目標に、ビジネスの諸活動を倫理観をもって行い、経済社会の発展を図る能力と態度を育てることを明記。
- 「ビジネス基礎」において、卸売・小売業等に従事する者に求められる職業倫理、「経済活動と法」において法令を遵守して企業活動を行うことの重要性など、職業人としての倫理観や遵法精神を育てる内容を充実。

教科「商業」の科目構成

改訂案	現行	備考
ビジネス基礎 課題研究 総合実践	ビジネス基礎 課題研究 総合実践	
ビジネス実務	商業技術 英語実務	整理統合
マーケティング 商品開発	マーケティング	分類整理 新設
広告と販売促進 ビジネス経済	商品と流通	新設
ビジネス経済応用 経済活動と法	国際ビジネス 経済活動と法	名称変更
簿記 財務会計Ⅰ	簿記 会計	名称変更
財務会計Ⅱ 原価計算	会計実務 原価計算	名称変更
管理会計 情報処理	情報処理	新設
ビジネス情報 電子商取引	ビジネス情報 文書デザイン	再構成
プログラミング ビジネス情報管理	プログラミング	新設

高等学校「水産科」(専門教科)改訂のポイント

- 原則履修科目：「水産海洋基礎」「課題研究」
- 科目構成：「水産海洋科学」や「マリンスポーツ」を新設するなど現行の20科目から22科目で構成
- 主な改善事項
 - ・水産物の世界的需要の拡大、水産物の資源管理や安定供給の必要性の増大、流通経路の変化、消費者ニーズの変化など水産業を取り巻く状況の変化への対応
 - ・海洋の環境保全や多面的活用など海洋に関する国際的関心の高まりなどへの対応
 - ・職業人として求められる倫理観の育成などへの対応

(1) 科目構成(次ページ参照)

(2) 各科目の改善事項

- 水産増養殖に関する学習内容の充実を図るため、資源管理や安全管理、未利用資源の利用に関する内容を加えるなど、「栽培漁業」を「資源増殖」に、「水産生物」を「海洋生物」にそれぞれ名称変更。
- 「漁業」、「資源増殖」及び「食品製造」について、水産業を取り巻く状況の変化に対応できるよう経営に関する内容を充実。
- 「水産基礎」について、海洋の基礎的な学習を取り入れるなど内容の見直しを図り、科目名を「水産海洋基礎」に名称変更。さらに広く深く水産・海洋に関する学習を行い科学的な見方や考え方を育成するよう「水産海洋科学」を新設。
- 海洋関連分野における新たなニーズに対応するため、海洋などにおける諸活動を円滑かつ安全に行うことができる人材の育成をねらいとした「マリンスポーツ」を新設。
- 教科の目標に、水産及び海洋関連の諸課題を倫理観をもって解決し、持続的かつ安定的に産業と社会の発展を図る能力と態度を育てること明記。
- 「水産海洋基礎」をはじめ水産物の生産・流通・加工に関する各科目において、食の安全に関する内容、「漁業」等の生産に関する科目において、資源管理に関する内容、「海洋環境」等において、海洋の環境保全等に関する内容を充実。

教科「水産」の科目構成

改 訂 案	現 行	備 考
水産海洋基礎	水産基礎	名称変更
課題研究	課題研究	
総合実習	総合実習	
海洋情報技術	水産情報技術	名称変更
水産海洋科学		新設
漁業	漁業	
航海・計器	航海・計器	
船舶運用	漁船運用	名称変更
船用機関	船用機関	
機械設計工作	機械設計工作	
電気理論	電気工学	整理統合
	電気通信理論	
移動体通通信工学	通信工学	分類整理
海洋通信技術		
資源増殖	栽培漁業	名称変更
海洋生物	水産生物	名称変更
海洋環境	海洋環境	名称変更
小型船舶	操船	名称変更
食品製造	水産食品製造	名称変更
食品管理	水産食品管理	名称変更
水産流通	水産流通	
ダイビング	ダイビング	
マリンスポーツ		新設

高等学校「家庭科」（専門教科）改訂のポイント

- 原則履修科目：「生活産業基礎」「課題研究」
- 科目構成：「被服製作」を「ファッション造形基礎」と「ファッション造形」に再構成するなど現行の19科目から20科目で構成
- 主な改善事項
 - ・消費者ニーズの的確な把握や必要なサービス提供等を行う企画力やマネジメント能力の育成への対応
 - ・生活文化の伝承や消費、環境への対応
 - ・職業人として求められる倫理観の育成や食の安全等への対応

(1) 科目構成（次ページ参照）

(2) 各科目の改善事項

- 「生活産業基礎」において、消費者のニーズを把握し、生活の変化に対応した商品・サービスの企画・開発から販売・提供する内容を扱うことを明示するなど内容を充実。
- 「消費生活」において、消費者と企業や行政とのかかわり及び連携の在り方等に関する内容を取り扱うことを明示するなど内容を充実。
- 「リビングデザイン」において、日本と世界の住生活と文化にかかわる内容を充実。
- 「服飾文化」において、日本と世界の服飾にかかわる内容を充実。
- 「消費生活」において消費生活と環境とのかかわりや持続可能なライフスタイルの形成に関する内容を充実。
- 教科の目標に、生活産業を取り巻く諸課題を倫理観をもって解決し、生活の質の向上と社会の発展を図る能力と態度を育てることを明記。
- 「食品」において、食品の表示にかかわる法規や制度など取り扱うことを明示し、食品を適切に選択、活用して食生活の充実向上を図る内容を充実。

教科「家庭」の科目構成

改訂案	現行	備考
生活産業基礎 課題研究 生活産業情報 消費生活 子どもの発達と保育 子ども文化 生活と福祉 リビングデザイン 服飾文化 ファッション造形基礎 ファッション造形 ファッションデザイン 服飾手芸 フードデザイン 食文化 調理 栄養 食品 食品衛生 公衆衛生	生活産業基礎 課題研究 家庭情報処理 消費生活 発達と保育 児童文化 家庭看護・福祉 リビングデザイン 服飾文化 被服製作 ファッションデザイン 服飾手芸 フードデザイン 食文化 調理 栄養 食品 食品衛生 公衆衛生	名称変更 名称変更 名称変更 名称変更 分類整理

高等学校「看護科」（専門教科）改訂のポイント

- 原則履修科目：「基礎看護」「看護臨地実習」
- 科目構成：「看護の統合と実践」や「在宅看護」などの科目を新設するなど現行の6科目から13科目で構成
- 主な改善事項
 - ・医療の高度化等に対応した、専門性の高い看護判断能力、安全で確実な看護技術の育成への対応
 - ・看護倫理やコミュニケーション能力などの豊かな人間性を身に付けた人材の育成への対応

(1) 科目構成（次ページ参照）

(2) 各科目の改善事項

- 看護に関する専門分野の学習の基礎となる科目として教育内容を充実するため、「看護基礎医学」の内容を分類整理し、「人体と看護」、「疾病と看護」、「生活と看護」として独立した科目に再構成。
- 高齢化の進展等に伴い、老年看護学の専門領域の教育内容を充実するとともに、対象者の様々な状態や状況に対応し、「成人・老人看護」のそれぞれの専門領域の教育内容を充実するため、「成人看護」、「老年看護」、「精神看護」、「在宅看護」として独立した科目に再構成。
- 母性看護学及び小児看護学の分野の専門性に応じて、「母子看護」のそれぞれの専門領域の教育内容を充実するため、「母性看護」、「小児看護」として独立した科目に再構成。
- 看護に関する各科目で学習した内容を臨床で実際に活用していくことができるよう、知識・技術を統合する内容として、「看護の統合と実践」を新設。
- 臨床での看護実習に限らず、様々な看護実践の場で実習することにより内容を充実するため、「看護臨床実習」を「看護臨地実習」に名称変更。
- 看護・医療の分野における情報及び情報手段を活用する能力の育成について内容を充実するため、「看護情報処理」を「看護情報活用」に名称変更。

教科「看護」の科目構成

改 訂 案	現 行	備 考
基礎看護	基礎看護	
人体と看護	看護基礎医学	分類整理
疾病と看護		
生活と看護		
成人看護	成人・老人看護	分類整理
老年看護		
精神看護		
在宅看護		
母性看護	母子看護	分類整理
小児看護		
看護の統合と実践		新設
看護臨床実習	看護臨床実習	名称変更
看護情報活用	看護情報処理	名称変更

高等学校「情報科」(専門教科)改訂のポイント

- 原則履修科目：「情報産業と社会」「課題研究」
- 科目構成：「情報と問題解決」、「情報テクノロジー」などを新設するなど現行の11科目から13科目で構成
- 主な改善事項
 - ・ 情報技術の進展や情報産業の構造の変化等への対応
 - ・ 情報に関する各分野の学習で習得した知識と技術を総合的に活用するとともに問題を適切に解決する能力や態度の育成への対応
 - ・ 職業人としての倫理観や遵法精神などの育成への対応

(1) 科目構成 (次ページ参照)

(2) 各科目の改善事項

- 情報の各分野に関する共通的な内容を学ぶ科目として「情報と問題解決」、「情報テクノロジー」を新設するとともに、「情報と表現」について、情報を表現するとともに適切に管理し活用する能力と態度を育成するよう内容を見直し、「情報の表現と管理」に名称変更。
- 実習を通して、各分野の学習で習得した知識と技術を総合的に活用する能力や態度の育成を目指した「情報システム実習」、「情報コンテンツ実習」を新設。
- 「モデル化とシミュレーション」を情報と情報手段を活用した問題の発見と解決に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させる「情報と問題解決」に整理統合。
- 教科の目標に、情報社会の諸課題を倫理観をもって解決し、情報産業と社会の発展を図る能力と態度を育てることを明記。
- 「情報産業と社会」において技術や情報の守秘義務や法令遵守など、「ネットワークシステム」において人為的過失や自然災害に対する安全対策などを取り上げ、情報技術者としての倫理観や遵法精神を育てる内容を充実。

専門教科「情報」の科目構成

改訂案	現行	備考
情報産業と社会	情報産業と社会	
課題研究	課題研究	
	情報実習	分類整理
情報の表現と管理	情報と表現	名称変更
情報と問題解決		新設
情報テクノロジー		新設
アルゴリズムとプログラム	アルゴリズム	名称変更
	情報システムの開発	
ネットワークシステム	ネットワークシステム	
	モデル化とシミュレーション	整理統合
データベース		新設
情報システム実習		
情報メディア		新設
情報デザイン	コンピュータデザイン	名称変更
情報メディアの編集と表現	図形と画像の処理	整理統合
	マルチメディア表現	
情報コンテンツ実習		

高等学校「福祉科」(専門教科)改訂のポイント

- 原則履修科目：「社会福祉基礎」「介護総合演習」
- 科目構成：介護福祉士にかかる制度改正等を踏まえ、「生活支援技術」、「介護過程」を新設するなど現行の7科目から9科目で構成
- 主な改善事項
 - ・介護分野における多様で質の高い福祉サービスを提供できる人材の育成への対応
 - ・介護福祉士にかかる制度改正等への対応

(1) 科目構成(次ページ参照)

(2) 各科目の改善事項

- 自立に向けた状態別の介護として、適切な介護技術を用いて、安全に援助できる知識や技術について習得することをねらいとして「生活支援技術」を新設。
- 福祉に関する他の科目で学習した知識や技術を統合し、介護過程の展開、介護計画の立案、介護サービスの提供ができる能力を養うことをねらいとして「介護過程」を新設。
- 介護技術の根拠となる人体の基礎構造や機能・心理及び介護サービスの提供における安全への留意点を理解し、心理的・社会的ケアの提供ができる能力を養うことをねらいとして「こころとからだの理解」を新設。
- 福祉に関する専門分野の学習の基礎となる科目として教育内容を充実するため、「社会福祉基礎」と「社会福祉制度」の内容を、「社会福祉基礎」に整理統合。
- 介護の考え方を理解するとともに、介護を必要とする人を生活の観点からとらえる科目として内容を整理し、「基礎介護」を「介護福祉基礎」に名称変更。
- 対人関係の基本やコミュニケーションの技術、介護を必要とする人や援助的関係を理解する科目として内容を整理し、「社会福祉援助技術」を「コミュニケーション技術」に名称変更。
- 介護実習に必要な知識や技術、介護過程の展開等について、総合的に学習する科目として内容を整理し、「社会福祉演習」を「介護総合演習」に名称変更。
- 福祉に関する他の科目で学習した知識や技術を総合し、介護サービスを提供する実践力を習得する科目として内容を整理し、「社会福祉実習」を「介護実習」に名称変更。

教科「福祉」の科目構成

改訂案	現行	備考
社会福祉基礎	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 0 5px;"> 社会福祉基礎 社会福祉制度 </div> <div style="margin: 0 10px;">}</div> </div>	整理統合
介護福祉基礎	基礎介護	名称変更
コミュニケーション技術	社会福祉援助技術	名称変更
生活支援技術		新設
介護過程		新設
介護総合演習	社会福祉演習	名称変更
介護実習	社会福祉実習	名称変更
こころとからだの理解		新設
福祉情報活用	福祉情報処理	名称変更

高等学校「理数科」(専門教科)改訂のポイント

○原則履修科目

- ・「理数数学Ⅰ」,「理数数学Ⅱ」,「課題研究」の各科目
- ・「理数物理」,「理数化学」,「理数生物」,「理数地学」のうちから3科目

○科目構成：探究的な学習を重視する観点から「課題研究」を新設し、現行の7科目から8科目による構成に変更

○主な改善事項

- ・数学科,理科の各科目の内容を,より系統的な指導を行うことができるようにする観点で再構成
- ・数学科,理科の各科目において扱わない発展的な内容についても指導(微分方程式,センサーを用いた計測,野外観察,実習など)

改 訂 案

科 目
理数数学Ⅰ
理数数学Ⅱ
理数数学特論
理数物理
理数化学
理数生物
理数地学
課題研究

現 行

科 目
理数数学Ⅰ
理数数学Ⅱ
理数数学探究
理数物理
理数化学
理数生物
理数地学



高等学校「体育科」(専門教科)改訂のポイント

○原則履修科目

- ・「スポーツ概論」, 「スポーツⅤ」, 「スポーツⅥ」, 「スポーツ総合演習」の各科目
- ・「スポーツⅠ」, 「スポーツⅡ」, 「スポーツⅢ」, 「スポーツⅣ」のうちから1科目

○科目構成：スポーツを「体づくり運動」, 「ダンス」, 「野外活動」を含めた広い概念でとらえた科目構成とするとともに, 「スポーツ総合演習」を新設し, 現行の7科目から8科目による構成に変更

○主な改善事項

- ・生涯を通してスポーツの振興発展に寄与する人材を育成する観点から, 各科目の目標を改善
- ・習得した技能及び知識を活用することを重視する観点から, 科目の新設を含め科目の構成を改善し, 内容を明確化

改 訂 案

科 目
スポーツ概論
スポーツⅠ (採点競技及び測定競技)
スポーツⅡ (球技)
スポーツⅢ (武道等)
スポーツⅣ (ダンス)
スポーツⅤ (野外活動)
スポーツⅥ (体づくり運動)
スポーツ総合演習

現 行

科 目
体育理論
体づくり運動
スポーツⅠ
スポーツⅡ
スポーツⅢ
ダンス
野外活動



※括弧書きは科目名に含まれない。

高等学校「音楽科」(専門教科)改訂のポイント

○原則履修科目

- ・「音楽理論」, 「音楽史」, 「演奏研究」, 「ソルフェージュ」, 「器楽」の各科目

○科目構成: 「鑑賞研究」を新設し, 現行の7科目から8科目による構成に変更

○主な改善事項

- ・演奏発表の場を設けるなどして, 互いに評価し合ったりする活動を取り入れる(声乐, 器楽, 作曲)
- ・知的財産権等の配慮に関する事項を新設

改訂案

科目
音楽理論
音楽史
演奏研究
ソルフェージュ
声乐
器楽
作曲
鑑賞研究

現行

科目
音楽理論
音楽史
演奏法
ソルフェージュ
声乐
器楽
作曲



高等学校「美術科」(専門教科)改訂のポイント

○原則履修科目

- ・「美術史」、「素描」、「構成」の各科目

○科目構成：現行の「映像メディア表現」を、「情報メディアデザイン」と「映像表現」に再構成し、現行の12科目から13科目による構成に変更

○主な改善事項

- ・情報化の一層の進展に対応するため、現行の「映像メディア表現」を「情報メディアデザイン」と「映像表現」に再構成
- ・知的財産権等の配慮に関する事項を新設

改訂案

科目

美術概論
美術史
素描
構成
絵画
版画
彫刻
ビジュアルデザイン
クラフトデザイン
情報メディアデザイン
映像表現
環境造形
鑑賞研究

現行

科目

美術概論
美術史
素描
構成
絵画
版画
彫刻
ビジュアルデザイン
クラフトデザイン
映像メディア表現

環境造形
鑑賞研究



高等学校「英語科」(専門教科)改訂のポイント

○原則履修科目

- ・「総合英語」,「異文化理解」の各科目

○科目構成：現行の「生活英語」,「コンピュータ・LL演習」を廃止し,現行の7科目から5科目による構成に変更

○主な改善事項

- ・ 「総合英語」や「英語表現」について,外国語科の「コミュニケーション英語」や「英語表現」の内容を適宜発展,拡充して指導することを明確化。これにより,より系統的な指導ができるように工夫
- ・ 「英語表現」や「時事英語」について,発表(プレゼンテーション)や討論(ディベート)を指導内容に明確に位置づけ
- ・ 生徒が英語に触れる機会を充実するとともに,授業を実際のコミュニケーションの場面とするため,授業は英語で行うことを基本とすることを明記

改 訂 案

科 目
総合英語
英語理解
英語表現
異文化理解
時事英語

現 行

科 目
総合英語
英語理解
英語表現
異文化理解
生活英語
時事英語
コンピュータ・LL演習



高等学校「総合的な学習の時間」改訂のポイント

- ・ 総合的な学習の時間の教育課程における位置付けを明確化し、その指導の充実を図るため、総則から取り出し、新たに章立てする。
- ・ 教科の枠を超えた横断的・総合的な学習、探究的な学習を行うものであることをより明確化する。

(1) 改善事項

- ・ 総則から取り出し、第4章に位置付ける。
- ・ 目標において、教科の枠を超えた横断的・総合的な学習、探究的な学習を行うことを明確に位置付ける。
- ・ 各学校が設定する目標については、現実の社会や日常生活とのかかわりを重視すること
- ・ 育てようとする資質や能力及び態度についての視点を例示

(2) 言語活動の充実

他者と協同して問題を解決する学習活動、言語により分析し、まとめたり表現したりする学習活動を新たに規定

高等学校「特別活動」改訂のポイント

- ホームルーム活動，生徒会活動，学校行事ごとに目標を新たに規定し，よりよい人間関係を築く力，集団や社会の一員としてよりよい生活づくりに参画する態度の育成を特に重視し，それらにかかわる力を実践を通して高めるための体験活動や生活を改善する話し合い活動を一層充実
- 生徒の発達の段階を考慮し，ボランティア活動などの社会参画にかかわる内容を充実するとともに，就業体験などの体験活動を推進

(1) 各活動・学校行事の改善事項

【ホームルーム活動】

- 集団の一員としてよりよい学校生活づくりに参画
- 社会において自立的に生きることができるようにするため，社会の一員としての自己の生き方を探求するなど，人間としての在り方生き方の指導を一層重視
- 意見をまとめるなどの話し合い活動や自分たちできまりをつくって守る活動，人間関係を形成する力を養う活動などを充実

【生徒会活動】

- 集団や社会の一員としてよりよい学校生活づくりに参画
- 意見をまとめるなどの話し合い活動や自分たちできまりをつくって守る活動，人間関係を形成する力を養う活動などを充実
- ボランティア活動などの社会参画の充実

【学校行事】

- 集団への所属感や連帯感を深め，公共の精神を養う。
- 就業体験などの職業観の形成や進路の選択決定などに資する体験活動を推進

(2) 言語活動の充実・活用の重視

- 体験活動を通して気付いたことなどを振り返り，まとめたり，発表し合ったりするなどの活動を充実